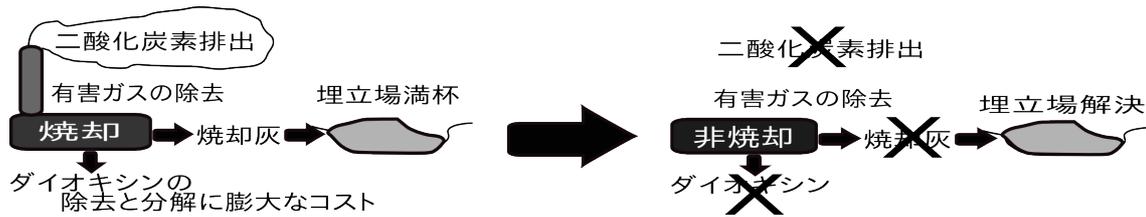


これからのごみ処理は非焼却方式



ごみ問題は非焼却方式により解決できます

●最終処分場(ごみ埋立地)満杯問題を解決します

最終処分場(ごみ埋め立て地)はもうすぐ満杯になります。埋立の大半はごみ焼却灰です。小金井市は焼却灰の埋立に毎年3億円以上使っています。非焼却方式すれば埋立コストの大幅削減になり、最終処分場満杯問題の解決につながります。

●煤煙とCO₂を排出しません(地球温暖化対策に貢献)

ごみ焼却は大量の煙とCO₂を大気中に放出します。非焼却にすれば、CO₂を排出せず、地球温暖化対策に貢献できます。二酸化炭素排出権販売の可能性もあります。

●炭素化法の産物(炭素)は有効活用できます

炭素化方式の最終産物・炭素は、工業原料や土壌改良材などの原料として有効活用できます。金属はそのままの形で回収され、都市鉱山(携帯電話など)から金や希金属の回収ができます。炭素と金属は、販売することも可能です。

●ダイオキシン問題を解決します

ごみを焼却すると毒性の強いダイオキシンが生成します。ダイオキシンを大気中に排出させないために多額なコストをかけてダイオキシンを含む飛灰を捕獲して灰溶融炉で高熱分解しています。非焼却方式ではダイオキシンの生成は殆どないので、ダイオキシン問題は解決します。

●ごみゼロ推進と合致しています

ごみの発生抑制(Refuse)、再使用(Reuse)、資源化(Recycle)、減量化(Reduce)で年々ごみは減っています。焼却方式ではごみ量が減ると運転効率が下がるため、大量のごみを必要とします。即ち、ごみ焼却は、ごみの減量化を進めるごみゼロ推進と相容れない関係にあります。非焼却方式は、少ないごみ量でも運転効率は下がらず、ごみゼロ推進と合致しています。

●メンテナンスが容易で、多様な対応が可能です

ごみ焼却はダイオキシンの発生を抑制するために数ヶ月間の連続運転をし、メンテナンスのために毎年2ヶ月間運転を休止します。非焼却はメンテナンスが容易で長期間休止は不要です。炭素化法は、ごみの種類に対応した多様な用途に柔軟に対応できます。

●狭い場所での設置も可能です

非焼却方式は、焼却方式に比べて約半分の面積で大幅に少ない費用で建設できます。数個の小型装置に分散設置でき、数階建に立体的に配置することも可能です。

●炭素化法は自動車のリサイクルなどで確立された技術です

炭素化法は、自動車シュレッダーダストのリサイクルで使われている確立されている技術です。最高温度450℃は、処理施設に比べると低温で、施設の安全生と耐久性にも優れています。

ごみゼロ社会のための情報サイト

<http://gomizero.net/>

ごみゼロネット NPO法人シニアSOHO小金井